

寅さん歩 その19

バーチャルウォークで

聖火を新国立競技場へ-10



平野 武宏

FWAホームページの「YR・四季の道」に八柳修之さんの「バーチャルウォーク（国内版）沖縄から新国立競技場まで東京オリンピック2020の聖火コース（仮想）1685kmを2020年7月までに歩いてみませんか」が掲載されました。

かつては平野寅次郎の名で映画の寅さんのように全国のウォーキング大会を歩き、世界最大のウォーキング大会 オランダ国際フォーデーズマーチ（4日間で120km）を完歩しましたが、2018年1月に坐骨神経痛を発症し、足の痛みで自由に歩けなくなりました。治療やリハビリを重ね、現在は8～10km程度の散歩まで可能に回復しましたが、歩けない時は例会にも参加出来ず、悶々としていました。こんな時の光明がこのバーチャルウォークの提案でした。バーチャルウォークはリハビリの散歩の距離を累計してバーチャルコースのゴールに向かう、すごろくのようなもので、「ゴールするまでは健康でいなければ」との目標を持つ前向きな気持ちにさせる取り組みです。

先の長いゴールまで歩けるかの不安もありますが、その時は**駕籠に乗って**（ウォーキングの隠語で交通機関を利用）聖火を新国立競技場へ届けようと気楽に考えました。歩く地域について学びながら思いを巡らすのも楽しいですよ。寅次郎は歩きながら、昔、ウォーキングで訪れて通過した県の思い出や、映画「男はつらいよ」で寅さんが通過した県でマドンナと、どんな恋をしていたのかをお話したいと思います。

2018年（平成30年）10月1日沖縄県辺戸岬をスタートした聖火は沖縄県那覇市から鹿児島県、宮崎県、大分県、福岡県、山口県、広島県を経て岡山県に入り、2019年（令和元年）5月18日現在、スタートから900km地点（全行程の53.4%）に到着しました。

〔岡山県後楽園～兵庫県赤穂市〕 901km～1000km



写真上左は岡山県後楽園、写真上右は赤穂浪士吉良邸討ち入りの図。岡山後楽園は江戸時代初期の岡山藩主 池田綱政により造営された元禄文化を代表する庭園で国の特別名勝に指定。金沢兼六園、水戸偕楽園と合わせて日本庭園（大名庭園）で日本三大庭園と呼ばれます。赤穂は御存知「忠臣蔵」として語り伝えられることになる赤穂浪士の地で古くから塩田で栄え「赤穂の塩」として全国に流通しました。今後は山陽道（西国街道）現在の岡山市、備前市、赤穂市、たつの市を歩きます。

寅次郎、岡山県は倉敷に2回訪れています。

2000年（平成12年）3月「第13回瀬戸内倉敷ツーデーマーチ」には仕事を終え、品川発の夜行高速バスで倉敷駅に向かいました。宿は倉敷美観地区近くの安い宿でした。

大会第1日目は夜行バスでの当日朝到着を考慮して20kmコースを選択。源平合戦ゆかりの藤戸寺や熊野権現として平安・鎌倉時代に大いに栄えた新熊野山から神仏分離で別れた五流尊瀧院（重要文化財）を訪れました。五流尊瀧院は日本修験道の本庁として全国に知られていると学びました。寒くて雨も降りだし、重要文化財の軒下で、かじかんだ手でお弁当を食べました。ゴールで食べた温かい下津井いいたこ天の味は格別でした。

大会2日目は早起きして近くの倉敷美観地区を散歩、雨上りの朝もやの倉敷川畔は本瓦葺・白壁・格子窓の倉屋敷と柳並木が見事に調和して抒情タップリでした。大会コースは市街の種松山公園や水島緑地の花や緑を楽しむ山陽路のウォークです。

2001年（平成13年）の第14回瀬戸内倉敷ツーデーマーチ大会にもFWAの仲間と参加しています。吉備路40kmコースを歩き、吉備津神社や備中国分寺などの史跡を巡りました。

デパートでは駅弁大会の開催を見かけますが、東京駅のお弁当屋では毎日が駅弁大会です。岡山名物駅弁 桃太郎の祭りずし(1000円)を見つけ懐かしく買いました。旅を思いだしたくなったら東京駅に駅弁を買いに来ることにした寅次郎でした。



映画の寅さんも岡山県を2回訪れています。

1971年(昭和46年)12月公開の第8作「男はつらいよ 寅次郎恋歌」で備中高梁に現われています。備中高梁は妹さくらの夫 博の故郷で、博の母の葬儀に旅先の寅さんが顔を出し、さくらを驚かせます。寅さん、そのまま居ついて博の父(志村喬)の話し相手になり、「本来の生活とは庭にリンドウが咲き、一家団らんでの夕食風景だ。人は一人では生きていけない、人は運命に逆らってはいけない」との博の父の話に神妙になったふうてんの寅さん、柴又に戻ります。喫茶店を開業した美人未亡人の貴子(池内淳子)に会い、一目ぼれ、子供とも仲良くなりますが独り身の寂しさから「一緒に旅に行きたい」との貴子の言葉に、寅さん、今回は自分から身を引き一人で又旅へ。旅先で以前、

気前よくお札を間違えて祝儀を渡した旅の一座に再会して幕。妻を亡くした博の父、未亡人の貴子、旅の一座、そしてふうてんの寅さんとそれぞれの生き方を感じさせる、しみじみとしたお話でした。

博の父から聞いた庭にリンドウの咲いている話を柴又で皆に話す寅さんやリンドウの花を持って貴子を訪ねて、慰める寅さんの姿が印象的でした。



1983年(昭和58年)12月公開の第38作「男はつらいよ 口笛を吹く寅次郎」で備中高梁に現れます。

寅さんの特技の一つはお葬式の取り仕切りで、総務関係の仕事が長かった寅次郎と似ています。

今回は備中高梁のお寺が舞台です。さくらの夫 博の父の墓参りに立ち寄った寅さん、和尚と娘の朋子(竹下景子)と知り合い、意気投合し、お寺に住み込みます。

二日酔いの和尚の代理で法事まで手伝うことになります。

柴又帝釈天 門前の小僧で育ち、露天商で身に付けた寅さんの調子の良いお説教は大好評。

博の母の3回忌で寺に訪れた博一家の前にも僧侶姿で現われて、さくらを驚かせます。寺の跡取りの長男は写真家になりたいと言い、和尚に勘当され寺の跡取り話で寅さんが話題になります。その話を聞いてしまった寅さん、柴又に戻り出家の相談、帝釈天の御前様の元で修業を行いますが、三日坊主で終わります。柴又を訪れ「寅さんに好意を抱いていた」と告げる朋子との柴又駅の別れのシーンの後、さくらに「大人の恋さ」とつぶやく寅さんです。



今回の寅さんは振られていませんでした。

なお、1995年（平成7年）12月公開の第48作「男はつらいよ 寅次郎 紅の花」では岡山県津山が舞台になっています。

寅さんの甥 満男（さくらと博の長男）が津山に現れて、好意を寄せていた高校時代のガールフレンドの泉（後藤久美子）の結婚式の行列をめちゃめちゃにしています。（「バーチャルウォークで聖火を新国立競技場へー2」をご参照ください）

スタートから1000Km地点に到着したら、次の兵庫県西宮市までのコースを紹介します。途中経過は「寅さん歩」の中でお知らせします。

今回は 官公庁の食堂めぐり-16 品川区役所 です。

平野 寅次郎 拝